

学力向上に向けての取り組み

本校でも、平成18年度より、すべての児童に「確かな学力」を定着させるために、学力向上検討委員会を立ち上げ、学力向上に向けた取り組みを行ってきました。

本年度も4月より、学力向上検討委員会を設置し、取り組んでいます。その内容について、本県様式「学力・学習状況プラン」に則って、説明をいたします。

1 現状・課題

学 力	<p>昨年度は、自ら進んで学習にとり組む力を育成していくことを重点課題として取り組んだ。音読指導（暗唱指導、群読、音読）、スキル学習（話す・聞く）の充実を図るとともに全校朝会や全校集会を活用して発表の場を設け、子どものためのブックリスト100の読書案内プリントを各学年毎に配布し、進んで読書ができるように支援してきた。</p> <p>平成22年度全国学力調査ならびに徳島県学力調査の本校の結果を、全国・県のデータと比較すると、国語・算数ともに「知識」に関する問題・「基礎的・基本的な力」を見る問題および「活用」に関する問題・「思考力・判断力・表現力」を見る問題において、平均正答率を上回っている。しかしながら、国語の「話すこと・聞くこと」の領域においては課題が見られた。</p> <p>そこで、本年度も聞く力、表現力を育成することを重点課題とする。</p>
学 習 状 況	<p>昨年度は、自ら進んで学習にとり組む力を育成していくことを重点課題とし、パワーアップタイムにおいて、くり返し、ドリル学習やスキル学習に取り組み、学習に対する抵抗感を少なくしてきた。その結果、決められた課題についてきちんと取り組む習慣がついてきたといえる。しかし、まだ十分定着してきているとは言えないので、今年度も引き続き自ら進んで学習にとり組む力を育成していくことを重点課題とする。</p>

2 目標等

(1) 学力について

重点目標：聞く力、表現力を育成しよう。		
具体的目標	数値目標	具体的方策
進んで本を読もうとする。	「読書がすき」な児童を70%以上にする。	朝の読書時間の確保と学級文庫のおもしろい本や図書室の本などの紹介をする。
話し手の言いたい事を考えて聞く。	話が聞ける児童を80%以上にする。	話し手が、話しやすいと感じる態度で話しを聞く姿勢を指導する。
進んで自分の意見を伝えようとする。	発表ができる児童を50%以上にする。	話し合い活動を充実させ、双方向のコミュニケーション力を高めるとともに、自己決定する場を設ける。

(2) 学習状況について

重点目標：自ら進んで学習にとり組む力を育成しよう。		
具体的目標	数値目標	具体的方策
進んで取り組もうとする習慣をもつ。	授業が分かる児童を70%以上にする。	パワーアップタイムにおいて、くり返しドリル学習やスキル学習に取り組み、学習に対する抵抗感を少なくする。